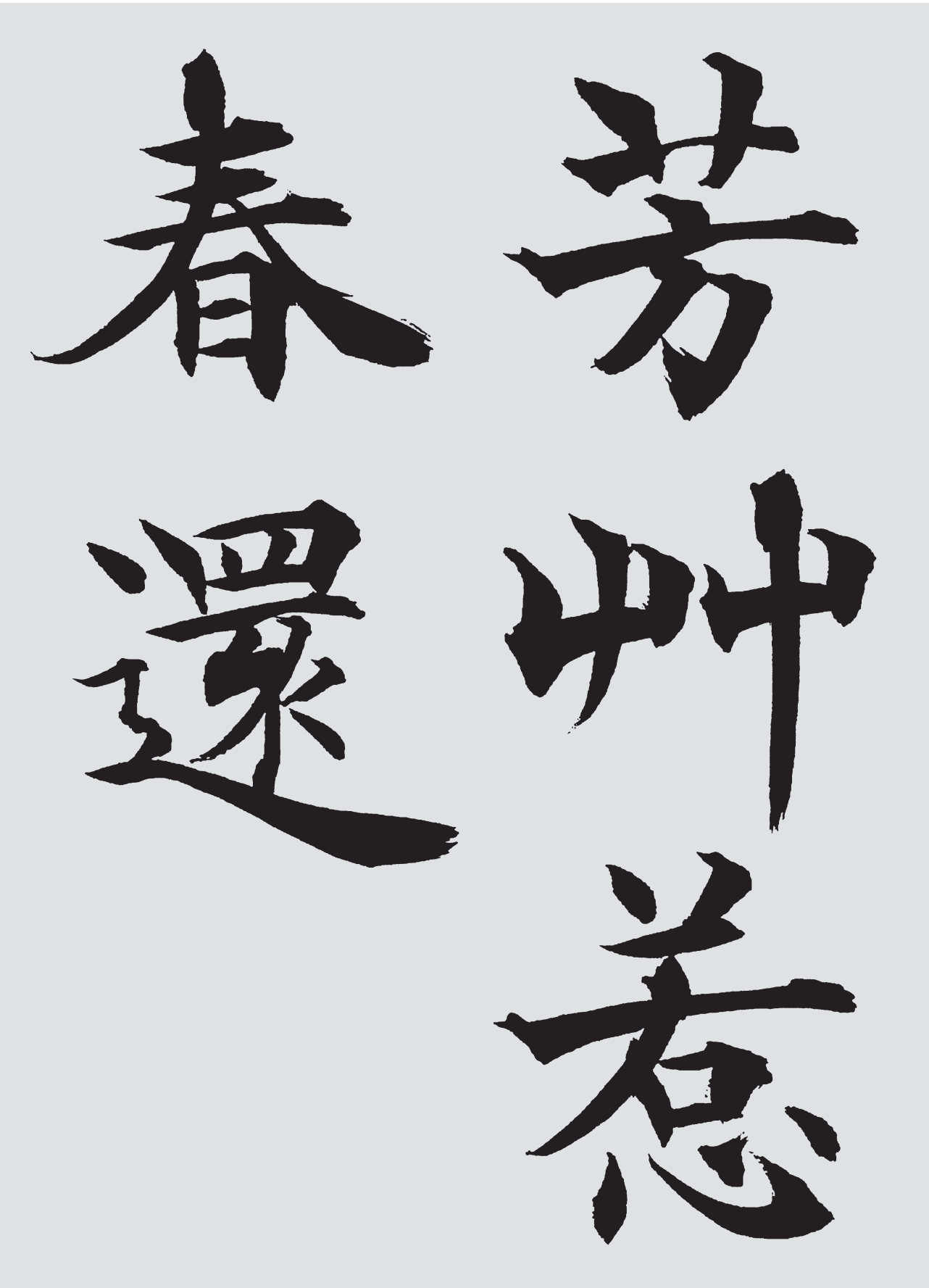


参 考 手 本

芳草春を惹ひいて還る

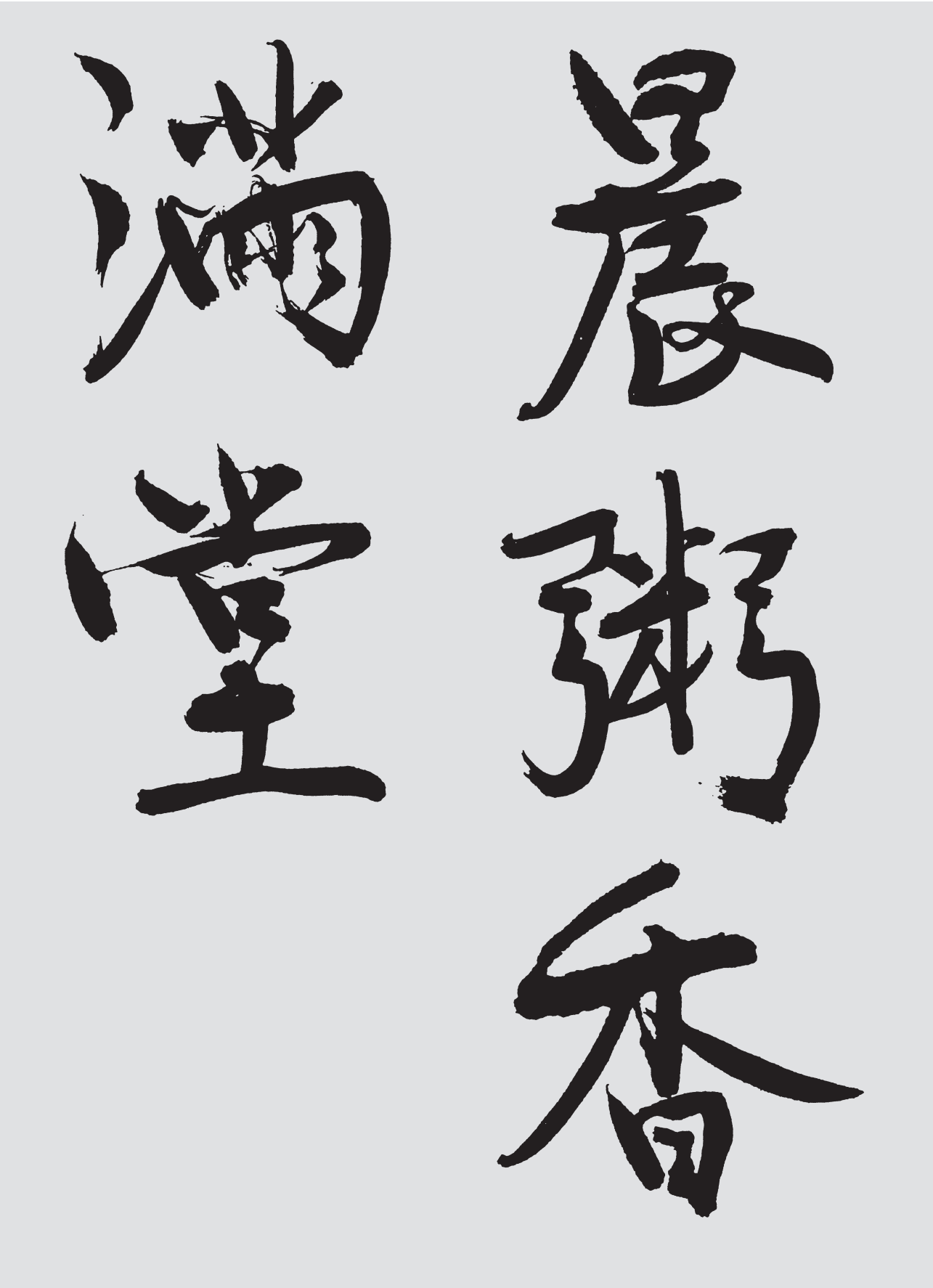


※これは規定課題ではありません。

高 木 聖 雨 先生

参 考 手 本

晨粥しんしゆく満堂に香る。

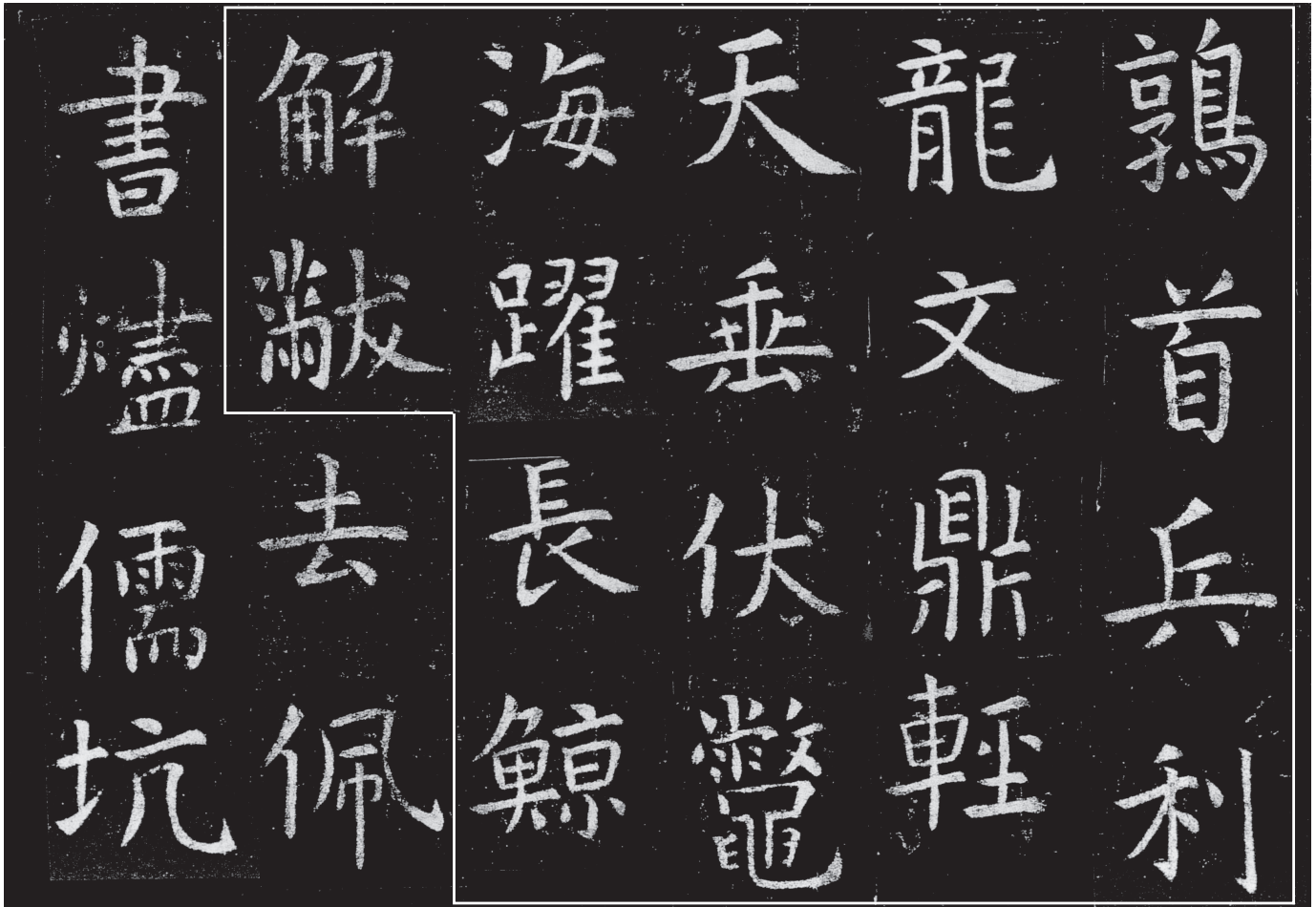


※これは規定課題ではありません。

成瀬映山先生

条幅規定

A部 (準五段以上)



ぐせいなん
 虞世南(唐) 『孔子廟堂碑』 ⑪

鶉首兵利 龍文鼎輕 天垂伏鼈
 海躍長鯨 解黻去佩 書燼儒坑

鶉首じゆんしゆの兵は利すく、龍文りゆうぶんの鼎かは軽かし。天は伏鼈ふくへつを垂たれ、海に長鯨ちやうけい躍おどる。黻ふを解はき佩はいを去いり、書は燼やかれ儒にゆは坑あなうめせらる。

鶉首じゆんしゆ(秦) 兵力を強めれば、龍文りゆうぶんの鼎かは軽かんぜらる。天は伏鼈ふくへつを垂たらして世乱を予言し、海には大鯨がおどるがごとく秦は小国併吞をほしいます。礼装佩玉を捨て、経書を焚し、儒者を坑あなうめす。

【今月の課題】

「鶉首兵利龍文鼎輕天垂伏鼈海躍長鯨解黻」(18字)

〔この課題を同月の条幅随意には出品出来ません〕

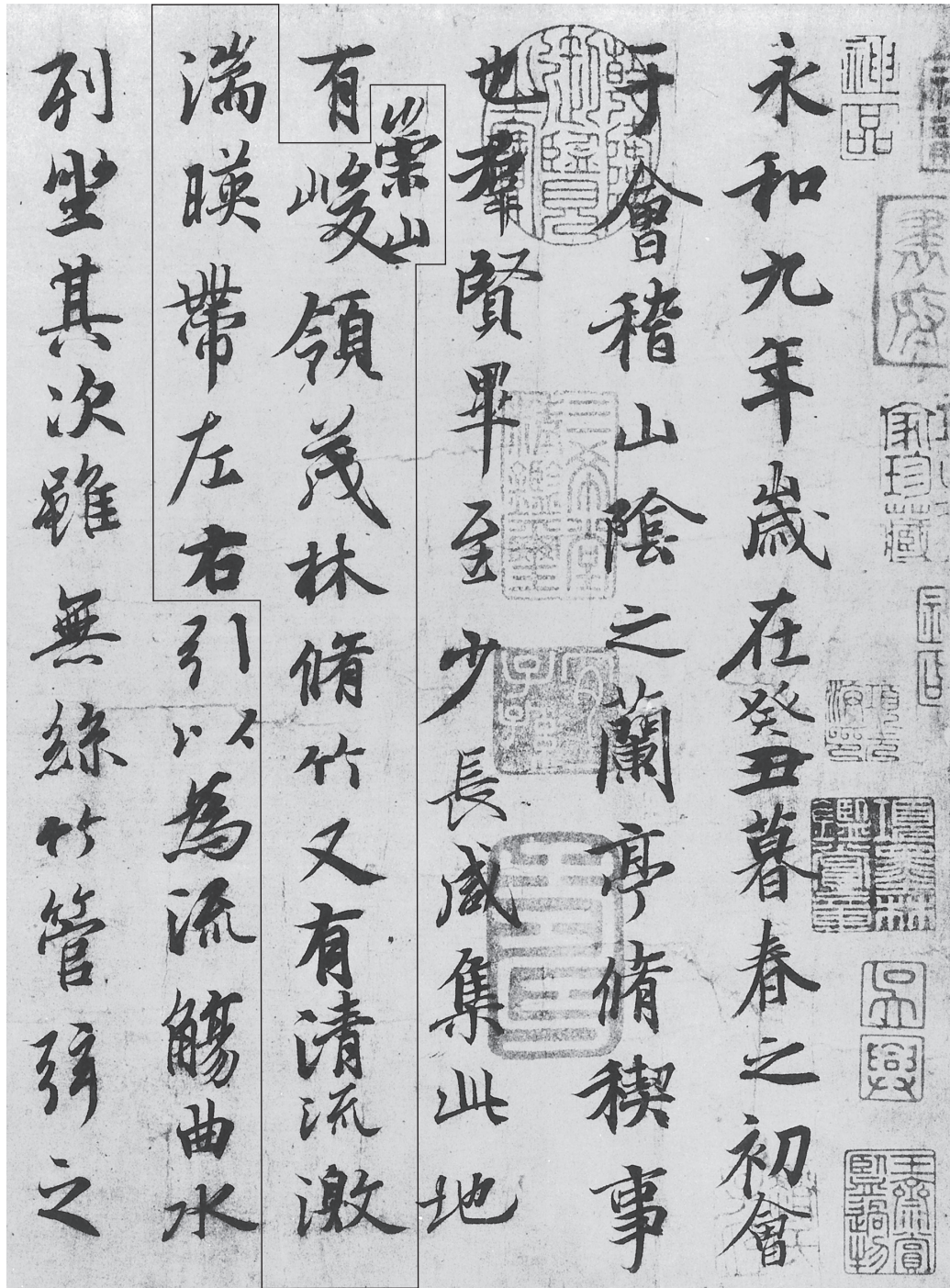
条幅のバーコード出品券にはA・Bでは無く
 段・級を記入してください

(4月10日締切)

条幅規定

B部 (四段以下)

『蘭亭叙』 王羲之 (東晋)



【今月の課題】 「崇山峻嶺茂林脩竹又有清流激湍映帶左右」 (18字)

条幅のバーコード出品券にはA・Bでは無く段・級を記入して下さい

(この課題を同月の条幅随意には出品出来ません)

永和九年。歳は癸丑。暮春之初。會于會稽山陰之蘭亭。脩禊事也。羣賢畢至。少長咸集。此地有崇山峻嶺。茂林脩竹。又有清流激湍。映帶左右。引以為流觴曲水。列坐其次。雖無絲竹管弦之

永和九年。歳は癸丑に在り。暮春の初め、會稽山陰の蘭亭に會す。禊事を脩むるなり。羣賢畢く至り、少長咸な集まる。此地崇山峻嶺、茂林脩竹有り、又た清流激湍有りて、左右に映帶す。引いて以て流觴曲水を為し、其の次に列坐す。絲竹管弦の盛無しと雖も、

(4月10日締切)

半紙規定 (二)

半紙規定 (一)

曹全碑 (漢・作者不詳)

竟子孫遷于



※清書作品には支部名・段級・雅号を必ず筆で記入して下さい。

土を廓め竟を斥くや、子孫雍州の郊に遷り、

九成宮醴泉銘 (唐・欧陽詢)

則醴泉出飲



※清書の提出は〔初段以上〕楷書か隸書

〔二級以下〕楷書

則ち醴泉出づ。之を飲めば

〔この課題を同月の半紙随意には出品出来ません〕
(4月10日締切)

条幅参考手本

松雨洗烟埃 山深人未來
鳥啼花欲暮 春水碧於苔

渡邊南嶂先生

松雨洗烟埃 山深人未來 鳥啼花欲暮 春水碧於苔
松雨烟埃を洗い 山深く人來たらず 鳥啼きて花は暮れんとす 春水は苔よりも碧し

渡辺久美先生

春陰易成雨 客病不禁寒
又與梅花別 無因一倚欄
春陰雨を成し易く 客病寒に禁へず 又梅花と別る 一たび欄に倚るに因無し

春陰易成雨 客病不禁寒 又與梅花別 無因一倚欄
春陰雨を成し易く 客病寒に禁へず 又梅花と別る 一たび欄に倚るに因無し

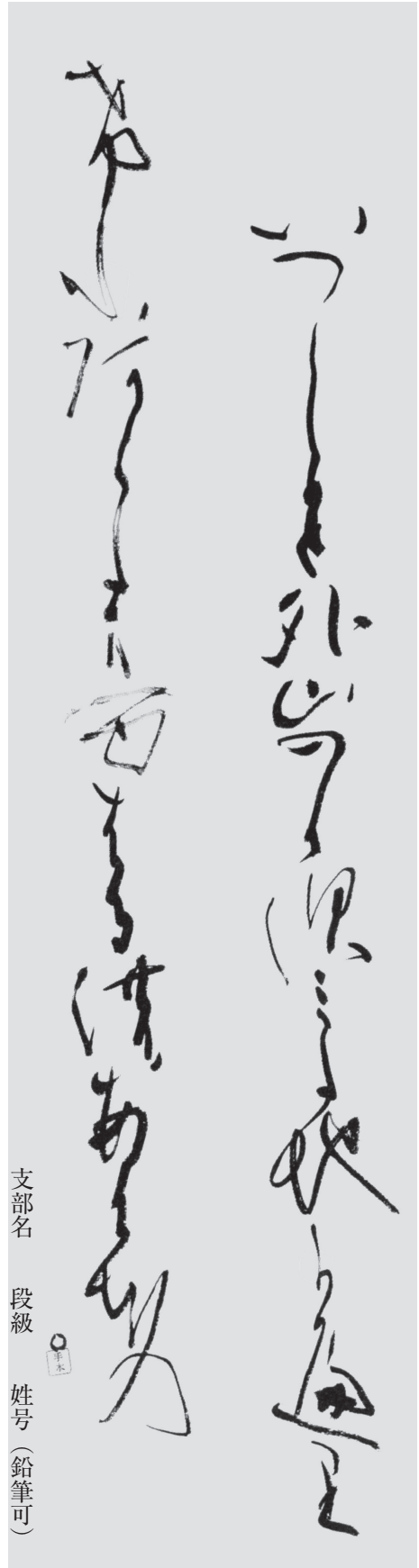
条幅参考手本

条幅かな



細野江華先生

欲迹春歸處 問春春不語 流水與落花 悠然背人去
 春の歸る處を迹せんと欲し 春に問へども春は語らず 流水と落花と 悠然として人に背きて去る



浮乗清郷先生

いつしかとやまの霞^{かすみ}たちかへりけふあらたまる春^{はる}のあけぼの (藤原定家)
可外山 可須三多地可遍里希阿 多万留者濃 个本
 ※かな部は支部名・段級・姓号を鉛筆で左下部に添え書きして下さい。

支部名 段級 姓号 (鉛筆可)

(4月10日締切)

半紙かな（1級～8級）

夜桜の一枝ながき水の上（高野素十）
斜九比と過た可

Handwritten calligraphy in cursive style (sōsho) for the text: 夜桜の一枝ながき水の上. The characters are fluid and connected, with varying line thicknesses.

支部名
 級
 姓
 号
 (鉛筆)

※ちらし文字変換は自由

山桜あくまで色をみつるかな花散るべくも風ふかぬ世に（平兼盛）
斜九比と過た可

Handwritten calligraphy in cursive style (sōsho) for the text: 山桜あくまで色をみつるかな花散るべくも風ふかぬ世に. The characters are highly stylized and expressive.

支部名
 段
 姓
 号
 (鉛筆)

※ちらし文字変換は自由

船久保 棠苑先生

※支部名・級・姓号を鉛筆で左下に添え書きして下さい。

※支部名・段・姓号を鉛筆で左下に添え書きして下さい。

(4月10日締切)

浮 乘 清 郷 先生

実 用 文

※準三段以上…行書を草書に変換は自由

〈書風任意〉

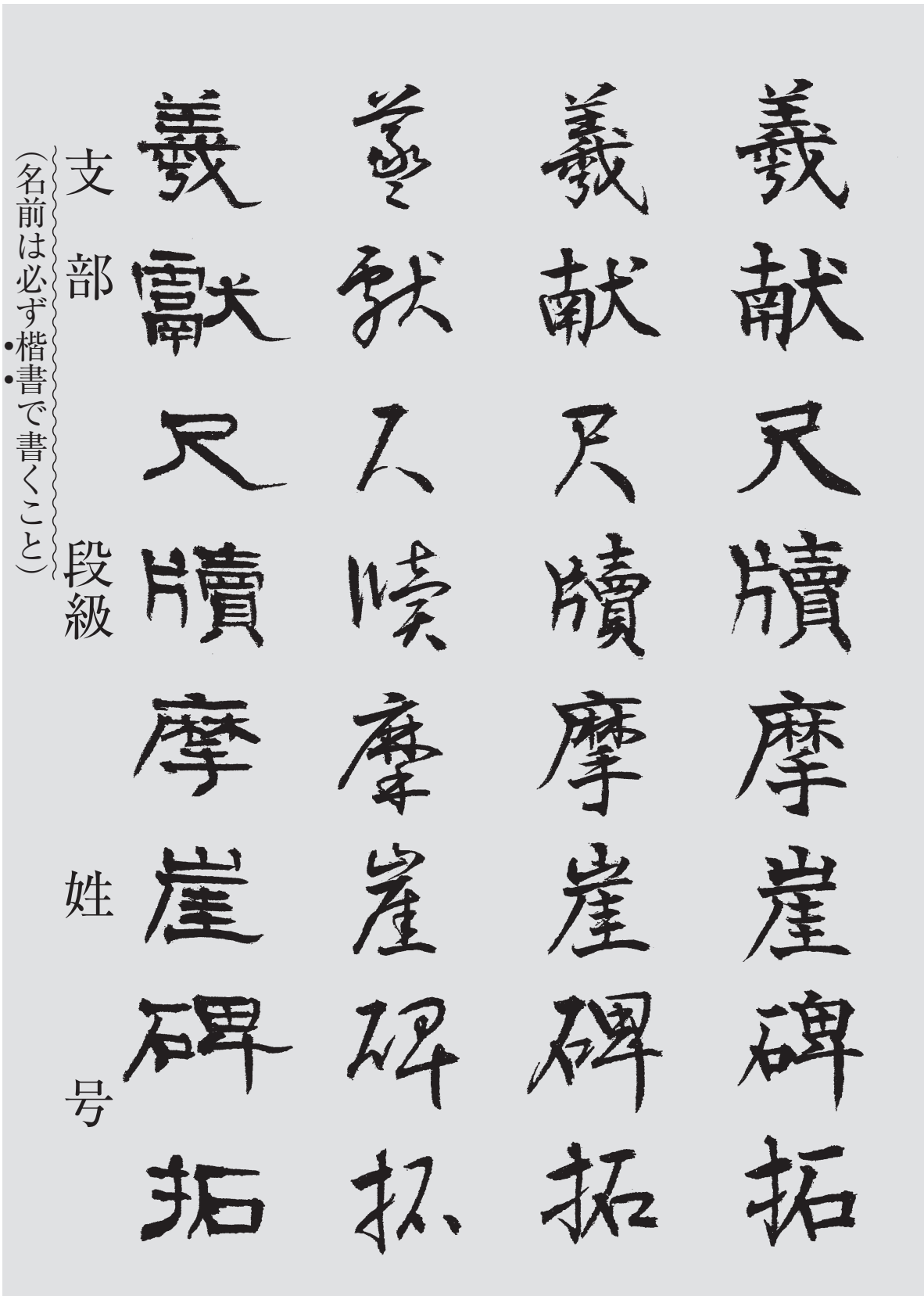
造像銘といふとすぐ龍門を連想
する。それは北魏の時代に造ら
れた。この銘が特に傑出した表現
と個性をゆそいふからである。

支部名 段級 姓 号

大井岳陵先生

(4月10日締切)

細 字



※一級〜八級は草書まで。 初段以上は隷書まで。 ※名前は楷書以外では違反になります。 17 cm (よこ) × 24 cm (たて)

尺^{せき} 義^ぎ 猷^{けん} 王義之と王猷之
 牘^{どく} 手紙
 碑^ひ 摩^ま 崖^{がい} 崖の壁面に文字を彫った碑。
 拓^{たく} 石碑の面に紙をあててすりとったもの。

支 部 (名前は必ず楷書で書くこと)
 段 級
 姓
 号

(4月10日締切)

硬筆（1級以下）

2行、楷書

忍耐とは、自分を抑える事ではなく
 希望をもって耐える事である。

支部 級 姓 号

田 辺 翠 鶴 先生

硬筆（初段以上）

3行、行草書

…文字を…願ひ…書き続ける…。

美しい文字を書きたくたいという願ひ
 は一般に手で書き続ける限り尽き
 ない人々の共通した思いだといえる。

支部 級 姓 号

青 柳 江 雲 先生

※本院定型用紙・たて半分を書く

（4月10日締切）

新中2用

支部名
 段級
 名
 前

春めく
 山河

渡邊南嶂先生

新中3用

支部名
 段級
 名
 前

世界の
 音楽

大越三宗先生

新小6用

支部名
 段級
 名
 前

大緑
 地の

渡邊南嶂先生

新中1用

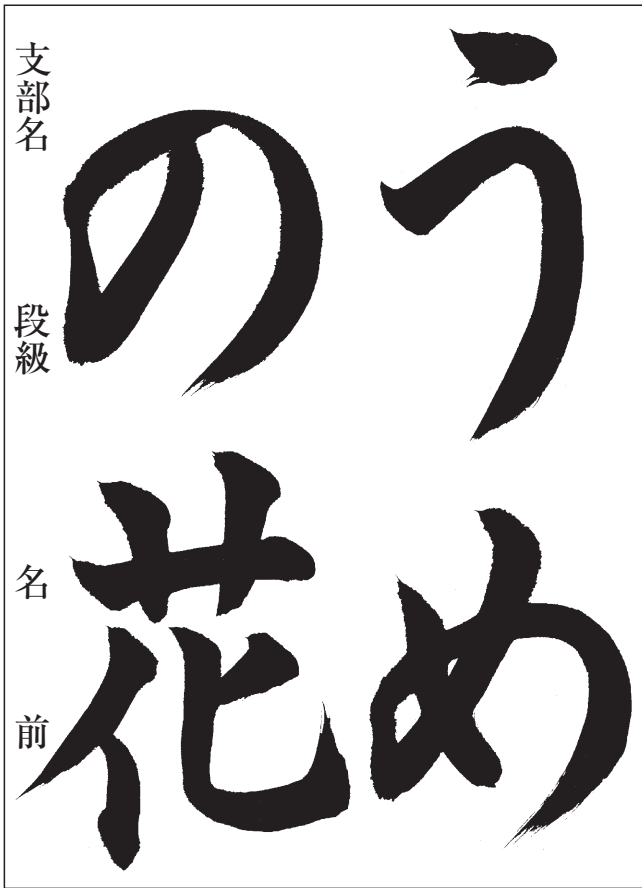
支部名
 段級
 名
 前

桜を見
 る会

渡邊南嶂先生

(4月10日締切)

新小4用



大越三宗先生

新小5用



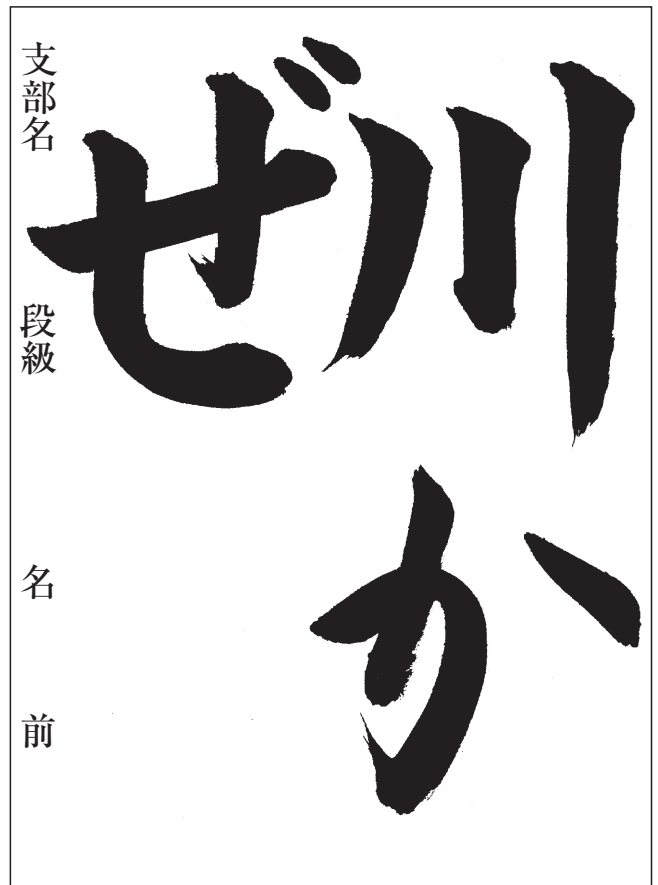
大越三宗先生

新小2用



鈴木翡翠先生

新小3用



鈴木翡翠先生

(4月10日締切)

新中1

え 気
る 持
こ ち
と が
と 明
未 る
来 く
を 切
開 替
く。

中1~中3

新中2

り 自
を 分
持 を
つ 顧
事 みる
が 心
大 の
切 ゆ
で と
す。

青 柳 江

新中3

彼 不
は 断
目 の
標 努
を 力
達 が
成 実
し を
た 結
。

雲 先 生

新小1・幼年用

支
部
名

段
級

名

前

うた

鈴 木 翡 恵 先 生

新小1・幼年

な う
つ め
く さ
く し く
ら
な の
は

小1~小3

新小2

と し
う ば
を ふ
た の
ま 上
ま で
し た お
べ
ん

田 辺 翠

新小3

黄 春
色 に
い な
花 り
が た
さ ン
い ぼ
た ぼ
。

鶴 先 生

新小4

青 庭
の に
花 赤
が 黄
さ 黄
い む
て ら
い さ
。

小4~小6

新小5

が 早
風 春
は の
ま 日
だ の
冷 光
た は
たい 明
。

齊 藤 翡

新小6

音 雪
が 深
聞 い
こ 北
え 国
て にも
て 春
く の
る 足

流 先 生

(4月10日締切)

新中学部かな課題

船久保 棠苑 先生

支部名 段級 名前

凍てどけの
ほぐまる
すのになくわかに

新小学部小筆課題

主幹 菅野 翠 濤

支部名 段級 名前

海の青と
山の緑

※半紙半分を書いて下さい。

(4月10日締切)

※半紙半分を書いて下さい。

5月10日締切課題予告

A部条幅規定 去佩書儘儒坑纂堯中葉追尊大聖乃建褒成

B部条幅規定 引以爲流觴曲水列坐其次雖無絲竹管弦之

かな条幅規定 君がため惜しからざりし命さへ長くもがなと思ひけるかな (藤原義孝)

半紙規定 (初段以上) 雍州之郊分 半紙規定 (一級以下) 之令人壽東

半紙かな (初段以上) 今ぞしる苦しきものと人またむ里をばかれずとふべかりけり (在原業平)

半紙かな (一級以下) 八重桜ちぎって落とす風に逢ふ (山口青邨)

実用文 行草作品の制作においては、文字の大きさを揃えず、大小・太細・長短・筆の遅速、墨色の変化など混然一体としての仕上がりが大切です。

一般硬筆初段以上 別れと出合いの春、卒業式、入学式や転勤など四月は人生の新たな転機の季節です。

一般硬筆一級以下 四月は花もたくさん咲き出し、全国各地で桜が見頃を迎えます。

学生課題5月10日締切並びに前期昇段級試験5月15日締切予告

中三毛筆 小鳥の歌声 中三硬筆 古城は質素な造りに深い気品をたたえていた。

中二毛筆 文学と人生 中二硬筆 未来へ一歩ずつ足を踏みしめ前進しよう。

中一毛筆 社会の動向 中一硬筆 湖は緑色の水をたたえ静まり返っている。

小六毛筆 長い文章 小六硬筆 何事も最後までやりぬく気持ちが大切だ。

小五毛筆 花見の人 小五硬筆 そよ風がほおに心地よい季節になりました。

小四毛筆 山びらき 小四硬筆 光がいつばい、花もいつばいの四月が来た。

小三毛筆 山びこ 小三硬筆 ようちえんの友だちと同じ組になった。

小二毛筆 ピアノ 小二硬筆 火よう日の音がくのじかんは、たのしいな。

小一毛筆 りす 小一硬筆 あり、りんご、ごま、まほう、うみ。

中学部かな 温かき雨のほひの夜気にふれ

小学部小筆 若草かおる 山之道